

動物園は、なんのためにあるのだろう？

『動物園は進化する ——ゾウの飼育係が考えたこと』

ちくまプリマー新書327 2019/6/10刊 定価(本体価格840円+税) ISBN9784480683526

飼育係は、空軍パイロットに次いで、 危険な職業第2位？

頭が良く、優して力持ち、というイメージのあるゾウだが、実はとても
獰猛な面も持ち、動物園のゾウの飼育係の殉職事故は今もあとを
絶たない。そのため、ゾウ係は極めて危険な職業と称されている。

永いキャリアを持つ、2人のゾウの飼育係が、その現状を変えるた
め、新しいゾウの飼育方法を編み出した。町の真ん中で、ゾウと人、
両者の幸福を実現しながら安全に共生する方法とは？その試行錯
誤を通して、あらためて「動物園とは何か」「ゾウをわれわれが飼うこ
と」の意味を問う。

東京・多摩動物公園や今年新しくお披露目となった札幌・円山動
物園のゾウ舎を始め、世界の多くの動物園でも実施されている、新
しいそのゾウの飼育法を、どこよりも詳細にわかりやすく紹介する。



◆「はじめに」より◆

ゾウを扱う飼育係の安全を考え、ゾウにとっても最適な環境を整
えて飼育することでゾウ本来の行動が見られるのではなかろう
か。(中略)そうすれば未来の動物園でもゾウを見られることにつ
ながるのではないか、私たちはそう考える。

◆目次◆

はじめに

第1章 ゾウとはどんな動物か

第2章 人間とゾウの歴史

第3章 ゾウの飼育法は変わってきた

第4章 新しい飼育法

第5章 ゾウと動物園

あとがき

著者：川口幸男

(かわぐち・ゆきお)

1940年伊豆大島生まれ。東京都恩賜
上野動物園に41年間勤務。退職後、動
物園コンサルタント・エレファント・トーク
を開業。元NHKラジオ夏休み子ども科
学電話相談の回答者。

著者：アラン・ルーククロフト

(Alan Rookcroft)

1947年イギリス生まれ。イギリス、ドイ
ツ、アメリカ等の動物園勤務を経て1988
年にコンサルタント会社エレファント・ビ
ジネスを開業。1988年から世界各国の
109の動物園を指導し、現在も11か国
30の動物園のコンサルタントを行っている。